

第 章 講演会

1 「POD ビジネスとそれを支える技術」

富士ゼロックス(株)
プロダクションサービス事業本部 マーケティング部
部長 勝田 勇生

講演会：「POD ビジネスとそれを支える技術」

講師：勝田 勇生

開催日：2007年9月13日

参加者：26名

記 録：上原 康博*

1. はじめに

POD(Print On Demand)とは、製版工程を経ずに必要ときに必要な量だけをプリントするデジタル印刷技術のことである。小部数印刷での一部あたりの印刷コストを低減でき、一枚一枚異なる内容を印刷する可変印刷でのデータベース活用など、将来の印刷方式として注目を集めている。PODは単なる印刷技術の変革にとどまらず、印刷業界のプロセスの変革であり、ソリューションを含めたデジタル印刷ワークフローの改革が伴っており、グーテンベルク以来の印刷革命とも言われている。

富士ゼロックスは「ザ・ドキュメント・カンパニー」として「ドキュメント」そのものの品質と「ドキュメント」を作るプロセスの両方で最高のサービスを提供するという企業姿勢を明確にしている。そして、これまで高品質・高生産性なプロフェッショナル向け出力機器とデジタル印刷における新たなノウハウ・ビジネスモデルを提供してきた。

本小委員会では、富士ゼロックス(株)プロダクションサービス事業本部 マーケティング 部長 勝田 勇生様をお招きして、ご講演を賜った。

2. 概要

本ご講演は次のような構成であった。

富士ゼロックスのプロダクションサービス事業

- ・ ターゲット市場
- ・ 印刷市場動向
- ・ カラーデジタル印刷のビジネス機会と課題
- ・ カラーデジタル印刷のビジネス支援

富士ゼロックスのカラーデジタル印刷を支える技術

- ・ カラー電子写真の画質総論
- ・ 高速カラー用露光技術
- ・ カラーレジストレーション
- ・ 高速カラー定着技術

3. 内容

富士ゼロックスのプロダクションサービス事業内容は3つある。1つ目は、お客様の出力環境/出力プロセスに対応するソリューションの提供、2つ目はノウハウ・ビジネスモデルの提供、3つ目はプロフェッショナル向け出力機器の提供である。東京 品川にある富士ゼロックス epicenter はお客様のソリューション検討の場として開設されている。そこではお客様の課題に富士ゼロックスがパートナー企業とともにコラボレ

* 技術調査小委員会

ーションを通して具体的な解決策を提供している。そして、最先端のデジタルプリプレス環境でワークフローを具現化し、最終的に富士ゼロックスの主要プリンタで完成出力物の品質確認を行うことができる。

POD ターゲット市場は、商業印刷業者・複写業/フランチャイズ、データサービスビューローと企業内印刷である。

印刷の市場動向は、現状では印刷業者が中心であるが、印刷の小ロット化・短納期化とともにデジタル化率は促進されてきており、POD は将来の印刷の主流になると考えられている。しかし、POD は大きな設備投資やスキルを必要としないので、新たなプレーヤーの参入が容易になっており、今後既存印刷業者にとって生き残りをかけた熾烈な戦いが始まると予測される。

カラーデジタル印刷業者の悩みは、収益性の確保であり、赤字の業者も少なくないと思われる。単に1ページをプリントして幾らという量の確保だけではなく、デジタル印刷の価値を理解して、サービスを提供するという視点を入れて付加価値をつけることが重要になってきている。

IPEX や Drupa に出展されたデジタル印刷機を見ると、2000 年以前は白黒機が全盛であったが、それ以降カラー機が出展され、2006 年 IPEX では複写機メーカーが本格的カラー機を出展してきた。

富士ゼロックスのプロダクション領域の代表的カラー機の位置づけは次のとおりである。

- ・ ライトプロダクション/ブルーフ・・・ DocuColor5065P/4055 P (毎分 50/40 枚)
- ・ エントリープロダクション・・・ DocuColor 8000AP/7000/5000 Digital Press (毎分 80/70/50 枚)
- ・ プロダクションカラー・・・Xerox iGen3 110(毎分 110 枚)

カラー電子写真の画質は、デジタル化と画像処理技術や電子写真技術の向上によりオフセット印刷に迫る領域になってきている。トナー製法は粉碎からケミカルに進化し、その粒径は5ミクロン台まで小粒径化されているものもあり、電子写真の欠点である粒状性は

年々向上している。また、印刷では上質紙での色再現域はコート紙に比較すると大幅に狭くなるのに対して、電子写真では印刷ほど狭くならず、非コート紙でも色再現の良いプリントを提供できる利点を有している。

富士ゼロックス DocuColor5000 Digital Press は、画像書き込み用の光源として、面発光型半導体レーザーVCSEL の採用により 2400dpi の高解像度を実現し、さらに HQ デジタルスクリーン MACS 技術によりグラデーションやハーフトーン、細線の再現性を向上させた。また、IReCT によりカラーレジストレーションを制御し、カラーレジストレーション精度や見当精度の向上が図れている。カラー定着は高速に対応するために、定着ローラの表面に Belt をラップさせてワイドなニップ幅を形成した Belt Nip Fuser を採用している。これにより、印刷に近い画像光沢を得ている。

4 . おわりに

本講演では、富士ゼロックスのプロダクションサービス事業を中心に、カラーデジタル印刷のビジネス機会や課題について報告された。

その中で、単にプリントするだけでなく、サービスを提供するという視点を入れて付加価値をつけることが重要であることをあらためて理解することができ、非常に有益な講演会であった。

また本講演会のあとに、富士ゼロックスの代表的プロダクションカラー機である Xerox iGen3 110 と Color DocuTech 60V が実際に動作している状況を見学することができ、さらに理解を深めることができた。

末筆ながら、ご多忙の中ご講演を賜った勝田 勇生様、ここに深くお礼申し上げます。

以上

禁無断転載

2007 年度

ビジネス機器関連技術調査報告書(“ 1 ” 部)

発行 社団法人 ビジネス機械・情報システム産業協会
技術委員会 技術調査小委員会

〒105-0003 東京都港区西新橋 3-25-33

NP 御成門ビル 4F

電話 03-5472-1101

FAX 03-5472-2511